

平成26年度第1回新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議 「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」の概要について

平成26年度第1回新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」を平成26年7月10日に開催しました。

推進会議には、7名の全委員にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして特定非営利活動法人Mブリッジ理事長の米山 哲司様にご出席いただきました。

なお、推進会議の概要は、以下のとおりです。

「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、50音順、カッコ書は役職

川北 輝（特定非営利活動法人津市 NPO サポートセンター理事長）

小堀 正一（三重県視覚障害者協会会員）

高橋 幸照（水土里ネット立梅用水事務局長）

増田 正人（公益社団法人みえ犯罪被害者総合支援センター専務理事）

舛本 大輔（国立大学法人三重大学大学院医学部院生）

宮本 倫明（「美し国おこし・三重」総合プロデューサー）

和田 京子（特定非営利活動法人伊賀の伝丸代表理事）

＜ファシリテーター＞

米山 哲司（特定非営利活動法人Mブリッジ理事長）



開会 10:00
戦略企画部部長あいさつ

- 1 平成25年度の取組状況について
 - ・平成25年度第3回推進会議の概要
 - ・平成25年度推進会議（全体）の状況
- 2 平成26年版成果レポートマネジメントシートについて
- 3 平成26年度推進会議の進め方について
- 4 協創プロジェクト事業概要について
 - ・平成26年度県民力を高める絆づくり協創プロジェクト事業概要
- 5 意見交換
 - ・共通テーマ：中間支援組織の「機能」と「あり方」
組織体制の強化
人材育成

閉会 12:00

＜推進会議の進行概要＞

会議のたまかな進行は次のとおり

（戦略企画部部長あいさつ）

竹内 望戦略企画部長から、今回の会議の目的等について説明いたしました。

- 1 平成25年度の取組状況について
 - ・ファシリテーターの米山さんから平成25年度3回の推進会議の概要を説明いただきました。
 - ・新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議（全体）の開催状況を事務局より説明しました。
- 2 平成26年版成果レポートマネジメントシートについて
 - ・事務局より説明しました。

3 平成 26 年度推進会議の進め方について

- ・事務局より説明しました。

4 協創プロジェクト事業概要について

- ・プロジェクトの平成 26 年度事業概要を各課から説明しました。

【委員からの意見】

飲酒運転 0 をめざす Campus キャンペーンで、学生の募集をどのようにしたのか。募集の状況はどうなのか。

現在、企画課の「学生」×「地域」カフェのテーマで募集を行っているところである。

5 意見交換

共通テーマ：中間支援組織の「機能」と「あり方」(組織体制の強化、人材育成)

委員から出された主な意見は、次のとおりです。

学生の募集では、意欲のある人はうまく引き上げればよいが、自分に関係ないと思っている人をどう引き上げていくのか。その辺りの手順が難しく、人材確保と人材育成が密になって関わってくると思う。

組織力を上げていくための牽引者の目標となるレベルをどのあたりに持っていくか。団体も違い、方針や今までの活動実績も違う中で、リーダーを育てるためにどのような基準を持っていくのか、どう連携すればよいのか難しい。

市民活動は当初、公害問題など対企業に関する内容のものが多かったが、今はソーシャルビジネスやコミュニティビジネスなどを行い、行政を補完している。それを支援するのが中間支援組織と思う。

中間支援組織については、それぞれで捉え方が異なることから、そうした違いを意識



しておくことが必要である。

(ファシリテーター)

中間支援組織の概念は異なっているが、それぞれの持つ課題は同じである。

その課題を乗り越えていこうとする時、何を作っていけばよいのかがここでのテーマと思う。新しいインターメディアリー(中間支援組織)として、ご意見をいただきたい。

津市民サポートセンターでは、相談業務でワンストップの窓口としていこうと考えているが、各分野の専門家ではないので、情報を共有できるビッグデータがあればよいと思っている。

NPO、企業、行政などいろんな方がテーマについて話し合える場が必要である。異なるセクターが集まり議論すると新たな施策が生まれると考える。

市民活動から生まれる新しいビジネスを現実の経済社会にブリッジを架けるという視点で、外国語を通訳しているアクティブ・シチズンや市民活動と、海外から観光客を誘致するなどの事業をつなぐことも大事である。

組織についても、実態がないところもある。伊賀市では市民活動センターがなく、いろんな活動をつなげる場、情報がほしいというのは同じなので、それをどうしていけばよいかと思っている。

多面的機能支払の事業が法制化され、恒久的になっていく中で、中間支援組織としての土地改良区が8団体と少ない。土地改良区に中間支援組織を担っているという意識が低いのではないか。

県が求めているNPOがどのような団体かわかるよう表彰制度を整えてもらいたい。

対話の場の形成とそこで生まれたアイデアや解決策を実現できる緩い予算の枠組がほしい。

中間支援組織の一覧を作成する場合は、全国一律の団体と三重県独自の団体を分類するとよい。こうした一覧は、人材育成を行っていく上で、他の団体の事業等を参考としていく場合に活用したい。



(ファシリテーター)

組織 人材育成についていろんな意見をいただいた。各課もヒントにしてもらい、施策に反映してもらいたい。

次回は財政について議論いただく予定であるが、組織や人材に戻って意見をいただい

てよいと思っている。

次回の開催予定

今回委員から出された意見を今後の施策や事業に反映することにより、「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」を推進していきます。

なお、第2回推進会議は平成26年10月に開催する予定です。